

今後の協議に向けての振り返りについて

平成29年12月1日

別府のみらい検討会議事務局

資料 2

第1回検討会議では 別府観光の課題と可能性について①

【課題】

- ① 広域的な視点での観光の推進
- ② 外国人宿泊客を増やすための施策
- ③ 市民を巻き込んだ観光まちづくりのさらなる推進
- ④ 高齢者や障がい者がゆったりできる温泉地づくり
- ⑤ 旅館ホテル業の雇用環境の改善 等々



しかしながら観光予算の現状としては、

戦略的に使える予算は6,400万円（約1割）

【可能性】

- ① 別府・湯布院との連携による温泉郷づくり
- ② 留学生が多い別府は外国人観光客誘致に有利な立場
- ③ さらに知名度を上げれば、国内・海外の観光客が増加する
- ④ 別府に観光客が来れば、オール大分の観光につながる 等々



別府観光にはもっとのびる可能性がある！

(温泉、自然、文化、国際色、研究、医療、大学、バリアフリー、…)



現状では可能性を引き出せていない

【観光産業の経済波及効果】

*平成28年別府市観光動態（平成29年10月）より

●別府市産業連関表をもとに、域際収支がプラスの産業（域外から外貨を稼いでいる産業）をみると、「宿泊業」が最も外貨を稼いでいる

●観光レジャー施設等の「娯楽サービス」や「飲食店」も高く、観光関連産業が別府市において稼ぐ産業となっている

（株式会社 大銀経済経営研究所 調査）



観光産業は経済波及効果が高い



可能性を引き出し、課題を解決する取組を推し進めるべき

第2回検討会議では 別府の置かれている状況について①

【全体予算】

(歳入)

- ・ 自主財源の比率が低い
- ・ 市民1人あたりの市税収入が少ない
- ・ 毎年入ってくる(経常的収入)はほぼ使途が決まっており、自由に使える収入(一般財源)が少ない

(歳出)

- ・ 福祉や社会保障費の支出である民生費の割合が著しく高い
- ・ 使途が自由な収入が少ない反面、民生費などの固定的経費の割合が大きいため、投資的な経費である観光費や建設事業費などが少ない

【観光予算】

- ・ 別府市の観光予算は5 2 0百万円（H 2 8）で予算全体（4 7, 4 7 0百万円）の1.1%
- ・ 他の観光地と比較しても、割合及び市民1人あたりの観光予算額は低い



**現在や今後の財政事情等を踏まえれば
観光地経営をしていくための予算を
安定的に確保することは難しい**

【観光分野への職員配置】

「別府市定員適正化計画」

《 第2次計画期間 》

平成24から33年度までに
正規職員を129人削減予定



**十分な職員配置はできない
専門知識を備えた人材確保が難しい
長期的な人材育成が困難**

第1回、第2回検討会議を終えて

- 別府観光には可能性があるが、まだ引き出せていない
- 観光産業は地域経済への波及効果が大きいが、現状の財政事情では観光予算と人材確保が難しい
- これまでの意見では、これから別府観光が将来にわたって成長するためには、これまで引き出せていない可能性へ挑戦することが必要であるとまとめられる